



# KIMIOTO



君の音に耳を傾け、共に考える

長岡市障害者基幹相談支援センター通信 Vol.24(2026.秋)

夏の間、タイマーを設定していたクーラーは朝までつけっぱなしになりました。そしてリビングのクーラーも、朝から晩まで連続稼働。子どものころ、学校にはクーラーなんてなかった。昼間の唯一の涼はプールくらいだったと、ふと思い出しました。



## 『福祉事業所の採用事情 ～人がいない時代に、人を支える人を探す～』

「人が集まらない」。福祉事業所の方とお話をする、本当に多く耳にする言葉です。介護・福祉分野の有効求人倍率は、全職種の平均倍率 1 倍台を大きく上回り、ますます厳しい状況にあります。

ある市内事業所の管理者は、「**以前は募集を出せば何人か応募があった。今は数か月出しても反応がゼロ**。資格や経験がなくても歓迎したいが、そもそも福祉の仕事を選択肢として考える人が少なくなっている」とのこと。

福祉の仕事は、利用者さんの人生に寄り添い、その成長や変化と一緒に喜べる大変やりがいのある仕事です。一方で、身体的・精神的な負担へのイメージや、他産業との賃金格差などから、**若い世代に十分その魅力が伝わっていないという指摘もあります**。

### 『福祉分野の有効求人倍率(令和5年平均)』

| 職種等               | 倍率    |
|-------------------|-------|
| 全職業平均             | 1.19倍 |
| 介護関係業種            | 4.02倍 |
| 障害福祉分野<br>(令和3年度) | 2.10倍 |

福祉分野では、求職者 1 人に対して 2～4 件の求人がある状況。事業所の多くが人材確保に苦慮しています。

国も処遇改善加算の拡充や研修制度の充実など、人材確保のための様々な施策を進めています。障害福祉従事者の給与水準も徐々に改善が図られているところです。

私たちが安心して地域で暮らしていくためには、多くの福祉職の存在が欠かせません。人材不足は事業所の問題だけではなく、**「地域の福祉をどう支えるか」という社会全体の課題**でもあります。福祉の仕事が「大変そう」だけでなく、「やりがいがある」「地域を支える大切な仕事」と感じてもらうために、引き続き検討を重ねていきます。



2040年には、さらに57万人の介護人材が必要になってくるんだって

今では有効求人倍率(上記の表)以上に、事業所では採用に苦労されていると聞いています





長岡市高見町 1660-1 ☎ 070-9272-7779

職員体制：相談支援専門員2名(管理者兼務1名)

Q. 「相談支援事業所つばさ」って、どんなところ？

A. 令和7年4月から相談支援事業を始めました。今年の5月から、放課後等デイサービス「フレデリーくろじょう」と同じ、今の場所に引っ越したところです。相談員はいずれも直接支援や関連分野の経験者です。

Q. どんなところが特徴？

A. 長岡と三条で放課後等デイサービス等も行っています。利用している児童の様子をキャッチしやすい点や、児童分野の支援の引き出しを幅広く持てる点が特徴です。児童の相談が多いですが、大人の相談の数も増えてきています。

Q. 支援のやりがいとは？

A. お母さんやお父さんと他愛のない話ができる関係を作れたり、子育ての話に共感しながら支援にあたれるところです。直接支援の業務では応じられなかった部分にも、相談支援をとおして関われるところもやりがいに感じます。

Q. 職場で心がけていることは？

A. お互いの困っていることを相談しあうようにしています。地域の相談支援事業所の先輩方や障害者基幹相談支援センターに相談したり、困りごとを抱えたままにしないように心がけています。



Q. あなたのリフレッシュ方法は？

A. 土田さん：1歳のネコがいます。仕事の後の一杯もいいですが「ネコ吸い」も良いリラックスになっています。

青井さん：子どもの部活観戦が趣味です。エコスタジアムやビッグスワンにも応援に行ったりします。



ネコ吸い……と聞いて、すぐにネットで調べたところ、「猫のにおいをかぐスキンシップ」だと初めて知りました。



猫を飼ったことないキミヲくんは、最初、お吸い物の一種だと思ったそうです

～本誌をご活用ください～

研修会をPRしたい、事業所を紹介したいなど、ご要望は障害者基幹相談支援センターまで

長岡市表町2丁目2番地21(社会福祉センター トモシア2F)

0258-39-2362 0258-86-0220(FAX) n-kikan-soudan@city.nagaoka.lg.jp

